



# 熊野・御浜・紀宝 中山間地域農業農村総合整備事業情報誌 「わたしの故郷、未来へともに」

— 営農が生み出す故郷の風景を守る 紀宝町桐原地区 営農飲雑用水施設整備事業 —

中山間地域農業農村総合整備事業とは、中山間地域の特色を活かした営農を確立するため、農業生産を支える水路やほ場等の基盤整備と、生産・販売施設等の整備を一体的に実施する事業です。三重県内では、現在7市町で事業計画が策定され事業が進められています。

今回は、県営中山間地域総合整備事業 紀宝中部2期地区の中で事業計画された紀宝町桐原地区の営農飲雑用水施設整備事業について、事業化に至るまでの経緯や現在の状況について、地元の皆さんにお話を伺いました。

## ■営農飲雑用水施設整備事業

営農飲雑用水施設とは、育苗、病害虫防除、家畜の飼育、農産物や農業用機械の洗浄等のための営農用水を主として、衛生的かつ近代的な農村生活を実現するための生活用水、集落用水の供給を合わせて行う施設である。

紀宝町桐原地区は、紀宝町の中心部から車で20分ほどの山間部に位置した人口988人の地域である。12年前に完成した桐原地区へとつながる新相野谷トンネルを抜けると水田が一面に広がり、山々に囲まれた美しい農村風景が目の前に現れる。

桐原地区では、本事業で整備されるまで水道設備が整っておらず、生活用水や営農用水は溪流取水からの水で賄われていた。

## ■地域の未来にとって必要！ 事業着手に向けて

かつて桐原には5つの水道組合があり、それぞれが山からの水をタンク

## ■営農が生み出す故郷の風景を守りたい

桐原地区には水田が広がっており、四季折々の営農が生み出す故郷の風景は、訪れた人々の心を癒している。取材をした日は、金木犀の甘くさわやかな香りがすでに漂い始めた頃だった。カフェの目の前には田んぼがあり、綺麗に稲刈りがなされていた。

「地域外の人がカフェを訪れ、桐原の風景をみたとき、例えば、この田んぼが荒れていたなら、桐原に移住したいと思う人はいるのだろうか」

に集め、各家庭に引いていた。水は豊富であったが、台風など大雨の度に、水が茶色に濁るなどの現象も起きていた。今から20年ほど前、当時区長を務めていた有城さんは、地域の将来を考えたとき、防災の観点から安心した生活を送れるよう水の供給体制を整えることが必要だと考え、住民や行政機関など、水道事業の必要性について説明に回った。さらに追い打ちをかけるように、水道組合も高齢化し、管理ができなくなるかもしれないという声も聞こえ始めていた。

桐原地区の声を受けて、町は、事業着手に向けて、桐原の営農状況や地域の整備も考慮し、町内の他地区と同様の整備を行った実績のある中山間地域農業農村総合整備事業での整備を提案した。そして平成29年に事業採択がされ、令和3年度末、待ちに待った運用が開始された。

## ■カフェのオープン 「桐原に移住したい」声が続出！

有城さんがふと話された言葉に、この当たり前にある桐原の農村風景が、いかに人々の心を豊かにしているのかを考えることができた。

この地で農業を営み、人々が暮らし生きてきたからこそ、桐原の美しい農村風景が形成されているのだ。この風景を守るといことは、ここに人が住める環境を整え、笑顔で暮らす未来をつくるということなのだ。

## ■取材を終えて

営農飲雑用水施設事業の実現は、桐原地区の安全安心な生活の確保だけでなく、カフェのオープン、それをきっかけに桐原を訪れた人の中には移住したいという声も聞こえ



写真-2 桐原の農村風景



写真-1 完成除幕式の様子（令和3年11月）

昨年度、本事業の運用が開始されたと同時に、桐原地区に「おもちかえりカフェはしばみ」がオープンした。店主の田戸さんは、和歌山県新宮市でカフェを営業していたが、夫の故郷である桐原でカフェをリニューアルオープンすることになっていた。ところが、飲食業の営業許可を取得するには県の基準を満たす水質が保証されていないなければならない。水道が整備されていない桐原で営業許可を取得するには、自分で施設を整備する方法も考えたがコスト面での負担が大きい。そんな時、桐原地区で本事業の運用が開始されることを知り、それに合わせてカフェをオープンすることにした。営業日の土日は多くの人で賑わっており、お弁当やケーキは、早いときには昼前には売り切れるほどだ。訪れる人は地域外からだけでなく、区長の下さんご家族もよく訪れるそうで、地元の人々も農作業の合間や散歩の途中などに寄るなど憩いの場となっている。

「お客さんの中には『桐原に移住したい』という声を多く聞きますよ！」と笑顔の田戸さん。

カフェをきっかけに桐原に多くの人を訪れ、地域外の人と地域住民の方とをつなぐ拠点となっていくのを感じた。



写真-3 おもちかえりカフェはしばみの全景



写真-4 大人気の今週のケーキとフルーツ氷



写真-5 左から、桐原区長の下さん、カフェ店主の田戸さん、桐原区水道設備実行委員長の有城さん

ているそうです。桐原地区の関係人口の増加にもつながっています。先人たちが桐原の未来を考えてきたように、今を生きる私たちも同じように、未来の人々を思い、行動することが必要なのだと感じました。地元の方々の笑顔のうらには、地域の未来のために行動した数えきれないほどの苦悩や労力があつたのだと感じ、胸が熱くなりました。（熊野農林事務所 山口）

本事業の工事を監督員として2年間担当してきました。施設が無事に完成し、地元の皆様が不自由なく使用している声を直接聞くことができ嬉しです。今後も三重県の美しい農村風景を守るためがんばりたいと改めて思いました。（熊野農林事務所 秦）

〈取材…令和4年10月〉